

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第44回

日本^{デンマーク}丁抹と 南吉の暮らし【その2】

新美南吉記念館で開催中の安城下宿80周年特別展「日本^{デンマーク}丁抹と南吉の暮らし」(10月27日)より南吉の下宿先での暮らしについてご紹介します。

* * *

昭和13年から安城高等女学校で勤務した南吉は、昭和14年4月頃から安城の新田にある大見家で下宿を始めました。

南吉の下宿部屋は、母屋前の門長屋の1室で、床の間と押入れ、縁側のついた8畳間でした。南吉はそこに机と本を置き、万年床だったという寝具を敷いていました。厠は庭に別棟で建っており、風呂は母屋に行って五右衛門風呂に入るといって生活しました。

新田は農家が多く、集落の周囲には田畑が広がっていました。不眠に悩んだ南吉は、月夜の晩にしばしば周辺を散策し、作品の構想を練りました。下宿を始めて2か月後の詩「宿」では、不眠の辛さもあってか下宿を「夜と、苦しみの栖」と表現していますが、

それから7か月後の詩「工房」では、「ああ私の来るのはここだった」と下宿への愛着が表わされています。

下宿した大見家は、村落の開村当初から続く古い家系です。南吉が下宿した頃は、当主の大見坂四郎夫妻と、娘夫婦、孫の男の子が2人の計6人と犬1匹が暮らしていました。ある日、単身赴任で普段は不在の大見家の婿が帰省すると、南吉は風呂を遠慮しました。そして、母屋の温かな家庭の様子を静かに感じ取っていたことが日記からうかがえます。南吉の大見家の人々を好ましく思う気持ちが伝わる日記です。

また、南吉は近所の子どもとも交流を深めました。部屋の南側の窓は道路に面していたため、格子窓越しに、あきみちゃんという隣家の子どもとよく話をしました。南吉の初めての本『良寛物語 手毬と鉢の子』を渡したのも大見家とあきみちゃんでした。南吉にとって下宿は、話を創る

「工房」であり、読者である子どもたちとの交流の場でもありました。

この下宿先は南吉が数多くの作品を書いた場所です。南吉の生誕100年を目前にした平成24年には現当主の大見博昭さんにより修復され、一般公開されるようになりました。現在では朗読会などで様々な催しにも活用されているので、皆様も訪ねてみてはいかがでしょうか。



▲南吉の下宿先室内

みなさんの(声)を聞かせてください アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666

東洋町2-1 企画課

Eメール

kouhou@city.handa.lg.jp



編集後記

表

紙のきつね、気になりまして。表紙は、ストッ

プモーションアニメーションの手法で作られた映像作品「GON, THE LITTLE NOX」のワンシーンです。全国のプラネタリウムなどで上映される予定です。大掛かりなセットの中で、人形を少しずつ動かしてコマ撮りしていく繊細な映像美が魅力で、2年の歳月をかけて制作されたそうです。

なお、「千と千尋の神隠し」のハク役の声優も、声を担当するそうです。公開まで楽しみです。

(浅野)